下市町育児支援に関するアンケート調査

平成14年12月

お手数ですが本調査にご回答された方の状況をご記入ください。

問１．　あなたの年齢はおいくつですか？　（　　）歳

問２．　住所地をお教えください。

1. 下市　　2．新住　　3．阿知賀・小路　　4．善城
5. 栃原・平原　　6. 梨子堂・原谷　　7. 仁予邑　8. 立石・才谷
9. 広橋・丹生・長谷・谷・西山・貝原・黒木

問３．下市町に何年お住まいですか？　（　　）年

問４．同居されているご家族の構成をお教えください。

１．子どもとの２世代　　２．３世代（親と同居）　　３．その他（　　）

問５．子どもさんは何歳ですか？（宛名の子どもさんの年齢に◎をご記入ください。）
（　　歳）（　　歳）（　　歳）
（　　歳）（　　歳）（　　歳）

※お手数ですが宛名の子どもさんについてお答えください。

A．育児支援についてお伺いします。

問１．地域で子育てについて助言や手助けをしてくれる方がいればいいと思いますか？

１．　思う　　→どのような助言や手助けがあればいいと思いますか？
内容（　　）
問３へおすすみください。

２．　思わない→問２へおすすみください。

問２．問1において「思わない」と答えられた方にお聞きします。
なぜ、そう思いますか？（もっとも当てはまるもの１つに○をつけて下さい。）

１．　育児は 親がするべきだと思うから
２．　余計なお世話だと思うから
３．　自分の世代と育児方法が違うから
４．　その他（　　）

問３．地域の人とのふれ合いの場がありますか？

１．ある・・・どのような場面でふれあいがありますか？
（　　）
２．ない

問４．地域で行われている各種の行事に参加していますか？

１．している ･･･どんな行事に参加されていますか？
（最も楽しみなもの1つに○をつけてください。）

1. ワイワイサマー　2. 集落の運動会　3. 集落のお祭り
4. その他（　　）

２．していない

問５．地域の人とのふれあいについてどう思いますか？（最も当てはまるものひとつに○をつけてください。）

１．情報を得る場　２．気分転換の場　３．わずらわしい場
４．その他（　　）

問６．地域の人とのふれあいは必要だと思いますか？（ひとつに○をつけて下さい。）

１．必要である　２．必要でない　３．よくわからない

Ｂ．子育て経験についてお伺いします。

問１．日常の育児の相談者をお教えください。（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

1. 夫婦で相談する　2. 自分の親　3. 配偶者の親　4. 友人
5. かかりつけの医師　6. 保健師・助産師　7. 近所の方
8. 保育士・幼稚園の先生　9. 電話相談　10. インターネット
11. 主任児童委員・民生児童委員　12. 誰もいない
13. その他（　　）

問２．周囲の人と育児について意見が合わなかったことがありますか？

１．　ある→問３へおすすみください。
２．　ない→問４へおすすみください。

問３．問２で「１．ある」と答えた方にお聞きします。

1. どなたと最もくい違いが出ましたか？（　　）

2. その方とのくい違いの頻度についてお答えください。
（ひとつに○をつけて下さい。）
1. いつも　2. しばしば　3. 時々　4. まれ

3. その方とどれくらいのくい違いがありましたか？
（ひとつに○をつけてください。）
1. 全てのこと　2. 多くのこと　3. 少しのこと

4．その方とくい違いが出たとき、あなたがとった行動は次のうちどれですか？（最も当てはまるものひとつに○をつけて下さい。）

1．　その方に従った
2．　1人目の育児の時は従ったが、2人目以降は自分の意見を通した。
3．　1人目の育児のときから自分の意見を通した
4．　他の人からその方に自分の意見を代弁してもらった
5．　無視するようにした
6．　少しの間家を出た
7．　その他（　　）

問4．子どものお母さん（母親かわりの方）は、働いていますか？

1．　はい
勤務の状態をお教えください。（当てはまるものに○をつけて下さい。）

1．常勤　　2．パートタイム　　3．自営業　　4．内職
5．不定期　　6．その他（　　）

2．　いいえ

問5．子どものお父さん（父親がわりの人）は、育児に参加していますか？
（当てはまるものひとつに○をつけてください。）

1．　よくやっている→問6へおすすみください。
2．　時々ある→問6へおすすみください。
3．　ほとんどない→問7へおすすみください。
4．　何とも言えない→問7へおすすみください。

問6．問5において「1．よくある」「2．時々ある」とお答えした人にお聞きします。どんなことを手伝ってくれますか？
（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

1．風呂に入れる　　2．寝かしつける　　3．ご飯を食べさせる
4．夜鳴きをあやす　5．おむつをかえる　　6．一緒に遊ぶ
7．その他（　　）

問7．子どものお父さん（父親がわりの人）に育児を手伝ってもらいたいですか？

1．手伝ってもらいたい　・・・それはどんな内容ですか？
内容（　　）
2．手伝ってもらいたくない・・・理由
（　　）

問８．お子さんの妊娠・出産した時の状況についておたずねします。
妊娠・出産についての状況はいかがでしたか？

１．満足している
それは、どのような内容ですか？
（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

1．病産院の設備　2．病産院スタッフの対応
3．妊娠・出産・育児についての不安への対応
4．母親（両親）学級　5．妊娠中の受動喫煙への配慮
6．夫の援助などの家庭環境　7．職場の理解や対応
8．その他（　　）

２．満足していない
それは、どのような内容ですか？
（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

1．病産院の設備　2．病産院スタッフの対応
3．妊娠・出産・育児についての不安への対応
4．母親（両親）学級　5．妊娠中の受動喫煙への配慮
6．夫の援助などの家庭環境　7．職場の理解や対応
8．その他（　　）

問９．子育てに自信が持てないことがありますか？（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

１．はい　・・・どんな時ですか？内容（　　）
２．いいえ
３．何とも言えない

問１０．下記のような内容をしていると思うことはありますか？

１．　ある（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

1．叩くなど　2．食事の制限や放置　3．しつけのし過ぎ
4．感情的な言葉　5．その他（　　）

２．ない

C．栄養と食生活についてお伺いします。

問１．子どもが赤ちゃん時代に市販の離乳食（ベビーフード）を利用しましたか？（当てはまるものひとつに○をつけてください。）

１．よく利用した　２．時々利用した　３．あまり使わなかった

問２．お子さんが野菜などの収穫の体験をした事がありますか？
（当てはまるものひとつに○をつけてください。）

記入例　内容（家で野菜づくりを手伝ってくれている）

１．よくある・・・どんな体験ですか？内容（　　）
２．時々ある・・・どんな体験ですか？内容（　　）
３．ない

問3. 料理するときお子さんに手伝ってもらうことはありますか？
（当てはまるものひとつに○をつけてください。）

記入例　内容（野菜をむいたり、切ってくれるのを手伝ってくれる）

１．よくある・・・どんな内容ですか？内容（　　）
２．時々ある・・・どんな内容ですか？内容（　　）
３．ない

問４．お子さんはよく噛んで食べますか？（当てはまるものひとつに○をつけてください。）

１．はい　　２．いいえ　　３．何とも言えない（　　）

D．歯みがき習慣についてお伺いします。

問１．子どもの口の中を見ますか？（当てはまるものひとつに○をつけてください。）

１．よく見る　２．時々見る　３．見ない

問2. 子どもの歯の磨き直しは、何歳まで必要だと思いますか？

（　　）頃まで

E．その他

問　育児しやすい町づくり、健やかな子どもが成長するための町づくりに何があればいいと思いますか？あなたのご意見をご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担研究報告書

壮年期男性の育児支援者としての潜在的可能性に関する研究
～ランダムサンプリング調査およびグループインタビューから～

森川美保子　奈良県下市町保健センター
松田　哲子　奈良県下市町保健センター
上中久美子　奈良県下市町保健センター
樋口　善之　福岡県立大学看護学部地域国際看護学講座
松浦　賢長　福岡県立大学看護学部地域国際看護学講座
山縣然太朗　山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座

50歳・60歳代の男性（以下　壮年期男性）における子育て支援者としての潜在的可能性を検討することを目的とした。奈良県下市町在住の壮年期男性500人を住民台帳よりランダムサンプリングし，返信用封筒を同封した質問紙を郵送した。質問内容は，子育て支援に対する意識，健康観，自己肯定感等であり，回収率は45.6％であった。また同質問紙調査対象者のうち7名を対象にグループインタビューを実施した。質問紙調査の結果，小中学生を対象にした子育て支援に関わってもよいと答えた人が84.9％であり，壮年期男性は子育て支援の地域資源として有望視できることが示唆された。グループインタビューからは，子育て支援者としての役割は，子どもたちに自然体にそして積極的に関わること，社会規範に反するようなことがあれば叱ること，などの現代では忌避されているような関わりが必要であることが示唆された。

Ⅰ．はじめに

５０歳・６０歳代の男性（以下　壮年期男性）における子育て支援者としての潜在的可能性を検討することを目的に下研究をおこなった。壮年期男性の地域における子育て支援に対する意識と健康観に関する質問紙調査およびグループインタビューから，子育て支援者としての可能性と地域で求められる役割について検討した。

Ⅱ．研究方法

奈良県下市町において，コンサルティングを受けている京都教育大学衛生学研究室から，「健やか親子２１」基本実態調査プランとして，１２種類の調査対象へのアンケート調査のグランドデザインを提示された（巻末に図１として示した）。これらの調査を実施することで，世代別や性別における育児に関する意識比較や，特徴・特性を活かした子育て支援体制の確立を目指している。そのグランドデザインに描かれた１２種類の調査対象のひとつである壮年期男性に対して，子育て支援意識と健康観についての調査を今回は行った。

平成１６年２月１日現在下市町には５０～６０歳代男性が１１１２人在住していた。そこで，該当する５０歳～６０歳代男性の約２分１にあたる５００人を無作為に抽出し，郵送法による質問紙調査を実施した。調査は無記名とした。質問紙の内容は，１．対象者の属性，２．子育て支援に対する意識，３．対象者の健康観，４．自己肯定感，の４点について問うものであった（巻末に質問紙を掲載した）。２２８人からの回答があり，回収率は45.6％であった。

また，アンケート回答者に対して，結果説明及び子育て支援意識と健康観についてのグループインタビュー（意見交換）を健康教室として開催した。参加者は7名であった。

表１．同居している家族の構成

	人数（％）
１人住まい	14（6.8）
夫婦２人住まい	51（24.8）
２世代	91（44.2）
３世代	30（9.7）
その他	20（9.7）

Ⅲ．結果

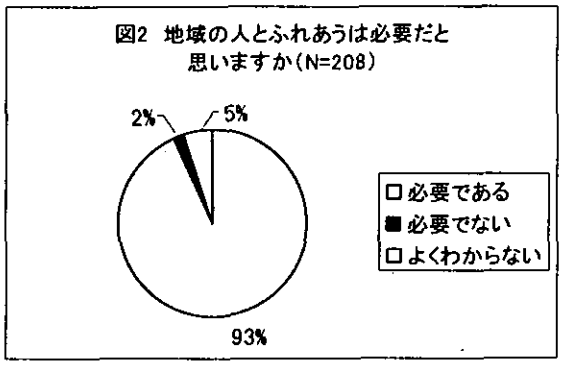
1．質問紙調査

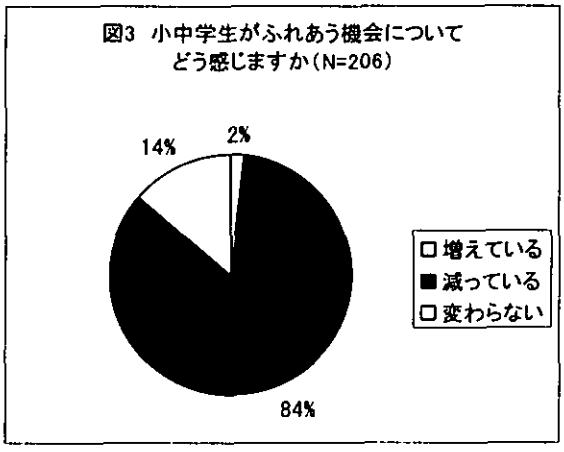
① 回答者の属性

回答者の平均年齢は59.7±6.1歳であった。同居している家族の構成は，２世代住まいが最も多く91人（44.2％）であり，次いで夫婦２人住まい51人（24.8％）であった（表１）。

② 小中学生とのふれあいに対する意識

ふれあいが必要と思っていたものは，210人（93％）とほとんどの人がふれあいが必要だと考えていた（図２）。一方，現在は小中学生と壮年期男性がふれあう機会が減っていると思っているものは188人（82.5％）であり（図３），ふれあいは必要だと思っても，現状は減ってきていると感じていたことがわかった。





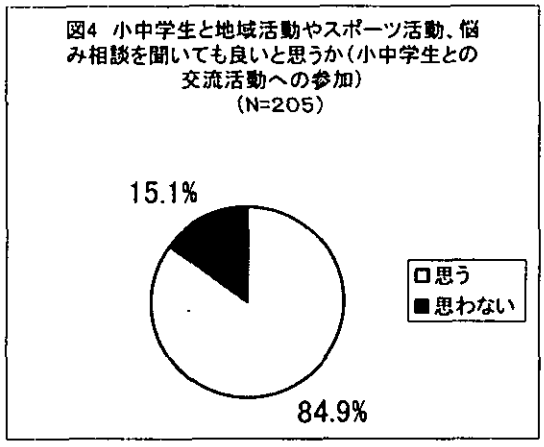
③ 地域子育て支援に対する意識

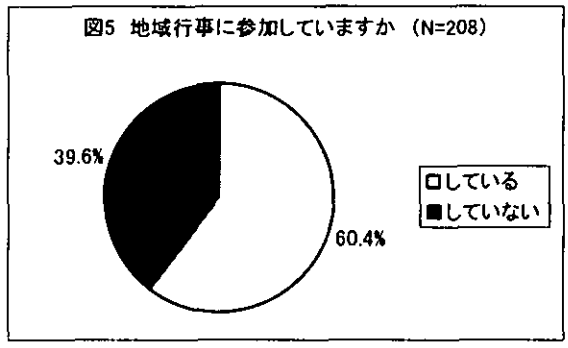
「小中学生と地域活動やスポーツ活動，悩み相談を聞いてもよいと思うか」という設問を，小中学生との交流活動への参加意欲，つまり地域での小中学生への子育て支援意欲と位置付けて，集計分析した。

小中学生との交流活動への参加に積極的（参加したいと思う）と回答した人は191人（84.9％）で，消極的（参加したいとは思わない）は，34人（14.9％）あった（図４）。

④ 地域とのふれあいに対する意識

現在地域の人とのふれあいは必要だと思う人は，210人（92.1％）で，必要と思わない人は，4人（1.8％）であった（図５）。





⑤ 小中学生に必要な心がけに対する意識

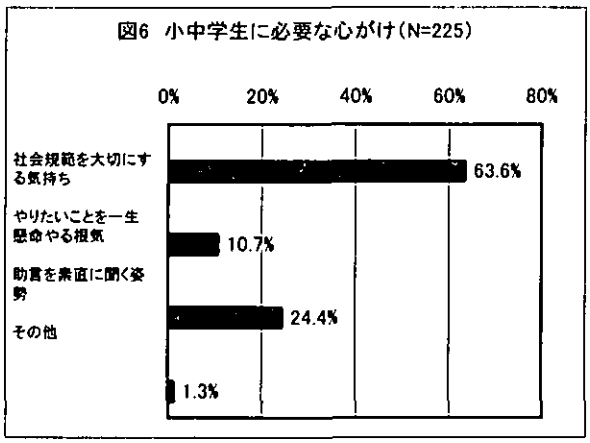
小中学生に必要な心がけは，社会規範を大切にする気持ちが143人（63.6％）と最も多く，順に，助言を素直に聞き入れる姿勢が55人（24.4％），自分のやりたいことを一生懸命やる根気が24人（10.7％）であった（図６）。

また，実際小中学生を見ていてどのように思うかという問いでは，礼儀を知らないが95人（44.4％）と最も多く，順に真面目でおとなしいが50人（23.4％），元気がないが40人（18.7％），元気がよくて，たくましいが29人（13.6％）であった（図７）。

⑥ 叱られた経験と地域子育て支援との関連

「対象者が小中学生の頃，親や親戚以外（身内以外）の大人からの男性からきつく叱られたことがありますか」と「小中学生と地域活動やスポーツ活動，悩み相談を聞いても良いと思うか」という地域子育て支援に対する意識とのクロス集計を行った（表2）。

叱られた経験のあると答えた人で地域子育て支援に積極的な人は115人（90.6%）であった（$p<0.05$）。



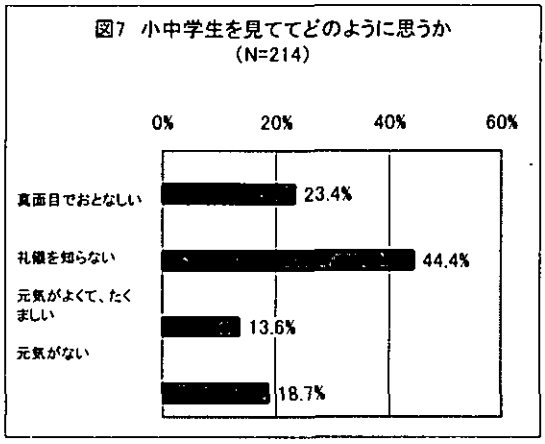


表2．叱られた経験と小中学生との交流

	小中学生と交流してもいいと思うか	
	思う	思わない
ある	115 90.6%	12 9.4%
ない	58 76.3%	18 23.7%
合計	173 85.2%	30 14.8%

2．グループインタビュー

「今の子ども達の現状と今後の関わりについて」をテーマにグループインタビューを行った。

それぞれの話し合いの内容から，「ふれあい」「叱るということ」「挨拶」「かまう」「地域子育て支援について」に分けて以下にまとめた。（資料1にも詳細を示した）

① ふれあい

昔に比べて，少なくなった。

② 子どもを叱るということ

昔は感謝されていたことであったが，今は迷惑行為ととられることがある。

③ 挨拶

地域のよって挨拶がかわされるところとかわされないところがあるが，集団スポーツなどで指導者がいるところに所属している子どもたちは，挨拶をする傾向にある。

④ かまう

大人がかまうと，子どももかまってくる。「かまうから　かまわれる」という関係にある。

⑤ 地域子育て支援について

特別何かをするというのではなく，自然体に接していくことが大切である。

Ⅳ．考察

1．潜在的可能性

壮年期男性は，地域子育て支援についての必要性を高く認識していた。育児を支援する側である壮年期男性は，子育て中の母親や家族あるいは子どもたちを支援していきたいと考えていることが明らかになった。つまり，壮年期男性は，子育て支援の地域資源として活用できることが示唆された。

2．壮年期男性の地域における子育て支援者としての役割

先の壮年期女性を対象にした研究において，子育て支援方法として，地域における良い意味での「おせっかい」や「かまう」といった「非理性的環境」の重要性を示唆した。同様に，壮年期男性もついても，地域とのふれあいを通じた子育て支援が有効であることが考えられ，非理性的環境の支援方法のひとつとして有効であると考える。

質問紙調査から壮年期男性は，今の小中学生の見方として，「礼儀を知らない」と答えており，また必要な心がけとして「社会的規範を大切にする気持

ち」と思うものが多いことも明らかになっている。ここから，壮年期男性の子育て支援者としての役割は，身内以外の子どもを時には「叱る」ということではないかということが浮かび上がってきた。

グループインタビューからは，小中学生への関わりの実際から，しかるだけでなく，子ども達との会話が十分に出来る，挨拶だけでなく児童生徒の話を聞き，認める関わりの重要性も示されていた。

つまり，十分な会話が出来る，包括的な存在でありながら，社会的規範を逸脱した行動をしたときには，身内・他人の子どもに関わらず「叱る」ことのできる存在であることが，壮年期男性の地域子育て支援者としての求められる役割なのではないかと考えられた。

V．まとめ

学校では，誉める教育が進められている。しかし，地域において，壮年期男性の子育て支援者としての求められる役割とは，今は減りつつある，いわゆるかみなり親父のような叱ることのできる，それでいて，子どもの話を十分に聞ける包括的な存在としての可能性が示唆された。これは，教育の「誉める」と地域の「叱る」のバランスが取れて，初めて子どもの“信頼”育成につながることが示唆された。

また，今回のアンケート調査から叱られた経験と小中学生との交流活動への参加意識との間に関連性があるという結果が出た。叱られた経験のある人において，小中学生との交流に参加してよいと答えた人が115人（90.6％）おり，有意差が認められた。

本研究の結果から，小中学生時に身内以外の成人男性から叱られたという経験をもつものは，子育て支援者としてその経験を地域に還元するという可能性が導き出された。「叱る」大人として地域の子育て支援にかかわることが将来の子育て支援者育成につながるのではないかという新たな仮説を検証するための更なる研究を進めていく必要がある．

Ⅵ．文献

1）白石裕子，松浦賢長：５０歳代及び６０歳代の女性における育児援者としての潜在的可能性に関する研究，厚生科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2001年．

2）樋口善之，松浦賢長：自己肯定感の構成概念および自己肯定感尺度の作成に関する研究，母性衛生，43（4）；500-504，2002年

3）樋口善之，松浦賢長：新たに作成した自己肯定感尺度の妥当性と信頼性に関する研究，母性衛生，43（4），505-512，2002年

育児支援と健康観に関するアンケート調査

お手数ですが本調査ご回答された方の状況をご記入下さい。

問1．あなたの年齢はおいくつですか。

（　　）歳

問2．住所地をお教え下さい。

1．下市　2．新住　3．阿知賀・小路　4．善城　5．栃原・平原

6．原谷・梨子堂　7．仁予邑　8．才谷・立石　9．広橋・栃本

10．丹生・長谷・谷・西山・貝原・黒木

問3．下市町に何年お住まいですか。

1．5年以内　2．6～10年　3．11～15年　4．16～20年

5．21～25年　6．26～30年　7．31～35年　8．36～40年

9．41～50年　10．生まれた時から

問4．同居されているご家族の構成をお教え下さい。

1．1人住まい　2．夫婦2人住まい　3．2世代（親とご本人・ご本人と子）

4．3世代（親とご本人と子・ご本人と子と孫）

5．その他（　　）

問5．お子さんの年齢をお教えください。

（　　）歳　（　　）歳　（　　）歳　（　　）歳　（　　）歳

ご回答を終わられた方で、子育て状況や地域の状況，小中学生のことなど、子育てに関することや健康観でお考えのある方は自由にご記入ください。

A. 育児支援等についてお伺いします。

問1 地域で行われている各種の行事に参加していますか。

1，している → 問2．へお進みください

2，していない → 問3．へお進みください

問2 問1において「1，している」と答えられた方にお聞きしますか。

どんな行事に参加されていますか。（最も楽しみなもの1つに○をつけてください）

1，ワイワイサマー　2，集落の運動会

3，集落のお祭り　4，その他（　　）

問3 あなたが小中学生のころ、地域の人とのふれあいの場がありましたか。（最もあてはまるもの1つに○をつけてください）

1，よくあった

2，ときどきあった

3，ほとんどなかった

4，全くといっていいほどなかった

問4 現在、地域の人とのふれあいについてどう思いますか。

（最もあてはまるもの1つに○をつけてください）

1，情報を得る場　2，気分転換の場　3，わずらわしい場

4，その他（　　）

問5 現在、地域の人とのふれあいは必要だと思いますか。（最もあてはまるもの1つに○をつけてください）

1，必要である　2，必要でない　3，よくわからない

問6　夫が育児を手伝うことは必要だと思いますか。

1，　必要だと思う

2，　必要ではないと思う

問7　昔に比べて、小中学生が、地域の中であなたの年齢層の人（50歳代以上の人）とふれあう機会について、どう感じますか。（最もあてはまるもの1つに○をつけてください）

1，増えている　2，減っている　3，変わらない

問8　地域の小中学生と地域活動やスポーツ活動をしたり，悩みや相談を聞いたりしてもよいと思いますか。

1，思う　→ 問10．へお進みください

2，思わない　→ 問 9．へお進みください

問9　問8において「2．思わない」と答えられた方にお聞きします。
なぜそう思いますか？（最もあてはまるもの1つに○をつけてください）

1，学校の先生や保護者の役割だと思うから

2，余計なお世話だと思うから

3，自分たちとは考え方や価値観が違うから

4，何を言われるかわからないから

5，興味がないから

6，その他（　　）

問10　あなたが小中学生のころ、親や親類以外の大人の男性をどのように感じていましたか。(最もあてはまるもの1つに○をつけてください。)

1,　身近な存在で頼りになった
2,　威厳があり，近づきがたかった
3,　それほど立派だとは思わなかった
4,　大人をあまり意識することはなかった

問11　あなたが小中学生のころ、親や親類以外の大人の男性からきつく叱られたことがありますか。

1，ある　　2，ない

問12　小中学生についてどのような心がけが必要でしょうか。
(最もあてはまるもの1つに○をつけてください)

1，　ルールやマナーなど社会規範を大切にする気持ち
2，　自分のやりたいことを一生懸命やる根気
3，　周囲の人のアドバイスや助言を素直に聞き入れる姿勢
4，　その他（　　）

問13　あなたは地域の小中学生を見てどのように思いますか。
(最もあてはまるものに1つ○をつけてください)

1，　真面目で，おとなしい
2，　礼儀を知らない
3，　元気がよくて，たくましい
4，　元気がない

B. 健康観についてお伺いします。(最もあてはまるもの1つに○をつけてください)

問1　あなたの生きがいは何ですか。

1，仕事をすること　　2，趣味を楽しむこと

3，孫の成長を見ること　　4，妻と暮らすこと

5，同世代の友達づきあいをすること　　6，若い人たちと話をすること

7，近所の子どもの世話をすること　　8，特になし

9，その他（　　）

問2　21世紀は高齢者の時代ともいわれていますが、あなたご自身の老年期（あるいは、これからの老後）の生き方や健康について日頃から考えていますか。

1，　はっきりと考えている

2，　ある程度考えている

3，　あまり考えていない

4，　まったく考えていない

問3　現在あなたの健康状態や健康づくりが、老年期（あるいは、これからの老後）の健康状況に影響を及ぼすと思いますか。

1，　大いに影響ある

2，　ある程度は影響ある

3，　あまり影響ない

4，　まったく影響ない

問4　あなたはご自身の老年期（あるいは、これからの老後）の健康のため、現在なにか実施していますか。

1，　積極的に実施している（具体的に　　）

2，　ある程度は実施している（具体的に　　）

3，　あまり実施していない

4，　まったく実施していない

問５　以下の質問に対し，あてはまるところに〇印をつけてください．

あまり深く考えず率直にお答えください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 私は，自主的に行動するほうだ．	1	2	3	4	5
2. 私は，家族と一緒に居ると落ち着く．	1	2	3	4	5
3. 私は，“自分にはできない”と決めつけることが嫌いだ．	1	2	3	4	5
4. 私は，自分なりの意見を持っている．	1	2	3	4	5
5. 私は，常に自分の意見が正しいと思う．	1	2	3	4	5
6. 私は，物事の結果を残念に思い続けるほうだ．	1	2	3	4	5
7. 私は，家族の中での役割を理解している．	1	2	3	4	5
8. 私は，自分の将来は自分一人で切り開くことができる．	1	2	3	4	5
9. 私は，過去の決断を後悔することがある．	1	2	3	4	5
10. 私は，家族との絆を感じる．	1	2	3	4	5
11. 私は，一度決めた目標はなかなか変えない．	1	2	3	4	5
12. 私は，自分のことは自分一人で解決できる．	1	2	3	4	5
13. 私は，自分のとった行動を後悔しやすいほうだ．	1	2	3	4	5
14. 私は，どんな場所でも自分のやり方を通す．	1	2	3	4	5
15. 私は，むやみに人を頼るより，できるだけ自分で頑張る．	1	2	3	4	5
16. 私は，過去に“ああすればよかった”と思うことがよくある．	1	2	3	4	5
17. 私は，どんな環境にあっても自分のベストを尽くす．	1	2	3	4	5
18. 私は，些細なことでよく落ち込む．	1	2	3	4	5
19. 私は，周囲から理解されている．	1	2	3	4	5
20. 私は，自分の親に似ていると言われるとうれしく思う．	1	2	3	4	5

＊　以上でアンケートは終了です。

ご協力ありがとうございました。

18-39歳　未婚女性
出産・育児に関する意識調査
居住形態と育児支援に関する意識調査

妊婦
出産・育児に関する意識調査
居住形態と育児支援に関する意識調査

18-49歳　既婚女性
出産・育児に関する意識調査
居住形態と育児支援に関する意識調査
産育習俗に関する知識・実践についての実態調査

45-59歳　女性
居住形態と育児支援に関する意識調査
産育習俗に関する知識・実践についての実態調査

60-69歳　女性
居住形態と育児支援に関する意識調査
産育習俗に関する知識・実践についての実態調査

行政（役所関係者）
育児支援に関する意識・実態調査
思春期保健対策に関する意識・実態調査

医療関係者あるいは医療資格保有者
育児支援に関する意識・実態調査
思春期保健対策に関する意識・実態調査

前回実施

教育関係者
地域との交流、児童生徒と
その親との交流についての調査

前回実施

18-49歳　既婚男性
育児協力に関する意識調査
居住形態と育児支援に関する意識調査
父親の役割に関する意識調査（子ども…幼少時・思春期）

45-59歳　男性
居住形態と育児支援に関する意識調査
父親の役割に関する意識調査（子ども…幼少時・思春期）

60歳以上　男性
居住形態と育児支援に関する意識調査
父親の役割に関する意識調査（子ども…幼少時・思春期）

今回実施

中・高校生の男女
心身の諸問題に関する意識調査
学校に関する調査
出産・育児に関する意識調査
父親・母親に関する意識調査

図1. 健やか親子21に関する基本実態調査プラン（グランドデザイン）

資料１．壮年期男性のグループワーク内容

『今の子ども達の現状と今後の関わりについて』

＜ふれあい＞
・ ふれあいが少なくなった。
・ 運動会など子どもからお年よりまで　みんなが参加できるような行事があったらいいのではないか。
・ 働きかけをあまりせず、消極的になっている。

＜叱るということ＞
・ 子どもを叱ると、その親は、「子どもに口出ししないでくれ」といわれたり、苦情が着たりする。昔は、逆に感謝されたものなのだが・・・

＜挨拶＞
・ 子どもに挨拶をしてもかえってこない（都市部）
・ 子ども達は、集団にいると挨拶を返したり、話をしたりするが、一人になると挨拶もしないで、話もしなくなる。
・ 集団スポーツに所属している子ども達は、きちんと挨拶をする。指導者の教育がいきどといているからだろう。

＜かまう＞
・ どこ子にも、名前を呼び捨てで呼んで、交流を図っている人が近所にいる。子どもも、その人には話しかけていく。呼び捨ては、地域の子どもは、家の子どもと一緒という考えのもとに呼んでいる。
・ 毎日挨拶が大変なぐらい、地域の子ども達は話しかけてくれる。その日にあったこと等を、いろいろ話してくれる。
　自分も子ども達が学校等から帰ってくると、「おかえり」といってあげる。
　家の人からは、「子どもにかまうから　かまわれる」といわれる。
　叱ることはしない。自分の親が怖かったから、子どもにはやさしく接したい。
　子どもとの会話は、挨拶にとどまらない。もう一言付け加えている。

＜地域育児支援について＞
・ 自然体で接することが大切だと思う。

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担研究報告書

幼児期における地域保健と学校保健の連携構築に関する研究
～学校保健・地域保健合同研修会報告に関する評価～

森川美保子　奈良県下市町保健センター
山口智佳子　奈良教育大学教育学部附属幼稚園
小松原かおり　京都教育大学教育学部附属幼稚園
石原　知恵　兵庫教育大学学校教育学部附属幼稚園
薬袋　淳子　山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座
江嵜　和子　京都市立崇仁小学校
松浦　賢長　福岡県立大学看護学部地域国際看護学講座
山縣然太朗　山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座

幼児期における地域保健と学校保健の連携を構築することを目的に，今回地域保健・学校保健担当者合同研修会を開催した。そこで連携に必要不可欠な互いの職務内容を知り，学校保健と比較して地域保健の得意・不得意分野の明確化から幼児期の健康支援において地域保健が担う役割について検討した。研修会では3つのテーマ①健康診断結果の活用方法，②発達の状況・成長の状況把握，③保護者との接点，でグループワークを行い，地域保健側と学校保健側の意見を集約分析した。これらの考察から地域保健の得意分野は主に客観的・専門的評価であり，不得意分野は主に保護者・児との日常的な状況の継続的観察であった。またそこから地域保健が求められる役割として，児及び保護者，家庭環境，地域環境等の情報提供及びフォロー必要児の状況の情報提供及び支援協力であった。しかし，情報提供にはプライバシーが問題となる。これについて市町村の事例で公文書による保護者への直接説明及び学校保健への連絡体制が報告された。

Ⅰ．はじめに

「健やか親子２１」に示されているように，小児の健康を考えるうえでは，様々な専門家の確かな連携が必要不可欠である。現在，３歳までは地域保健の枠内で子どもたちの健康がフォローされる仕組みとなっている。それ以降，家庭・保育園・幼稚園などのステージから就学前までは，子どもたちの健康をフォローする体制が整っていないのが現状である。フォロー体制を整えるためには，地域保健と学校保健の連携構築が必要となる。

本研究は，地域保健と学校保健の連携を図ることのできるモデル体制づくりをめざすことを目的とした。地域における３歳児健診と幼稚園における健診をテーマに，地域保健・学校保健担当者合同研修会を実施した。連携に必要不可欠な，互いの職務内容を知るということにより，学校保健と比較して地域保健の得意・不得意分野を明確にし，学校保健との連携を考えたときの地域保健に求められる役割について考察した。

Ⅱ．研究方法

合同研修会におけるグループワークの結果をもとに考察する。グループワークの前に，まず，幼稚園養護教諭から，幼稚園における健診に関する情報提供があった。それに対応するかたちで，地域保健師として，市町村における3歳児健診に関する情報提供を参加者に対しておこなった。その際，配布した資料を巻末に添付する。

グループは，４グループで，１グループ約１４名，保健師と養護教諭は約半数ずつになるようにした。グループワークテーマは以下の３つで，これらからそれぞれ好きなテーマを選んでもらい，約４０分のグループワークを実施し報告してもらった。グループワークの進行は本研究班の主任研究者がおこなった。

① 健康診断結果の活用方法

主に健診結果をもとに保護者へどのように指導しているのか，職員同士の情報共有をどの範囲（人的範囲，情報範囲）まで行っているのかについて

② 発達の状況・成長の状況把握

主にどのような場面で把握しているのか，客観的把握が出来ているのかについて

③ 保護者との接点

主にどのような機会に接点をもっているのか，どのようなときに必要かについて

Ⅲ．結果

グループワークの結果を以下にまとめる。また，巻末にグループワークのテーマと話し合いのポイントをまとめた資料を添付した。

① 健康診断結果の活用方法

地域保健：集団に入ってからフォローが必要な場合は，保護者から園に伝えるように指導している。

学校保健：行動観察をして必要があれば医療機関を紹介する。

②発達の状況・成長の状況把握

地域保健：３歳児健診時に把握する。保育所，幼稚園と連絡をとり，子どもの状況を確認する。健診終了後，集団生活に入るために，保護者とともに園等に出向き，説明をする。健診後観察必要な児は家庭訪問，電話訪問，予防接種等で把握する。

学校保健：入園後６月末まで受ける健康診断時に把握する。保護者から相談される。日々の子ども達を観察して園医と相談する。連絡帳に保護者が記入する。身体測定時に保護者と会話し把握する。

③保護者との接点

地域保健：健診，相談，教室，訪問，電話等による。３歳児健診以降，関わる機会が少ない。幼稚園・保育所に任せてしまう。問題のある人に勝手に訪問したり電話したりできる。

学校保健：日中，教室の補助として入る時，園庭開放時，挨拶当番等で保護者との登園時，健康手帳への記入などがある。毎日顔を合わせるので，日ごろの観察がしやすい。

Ⅳ．考察

１．学校保健との連携を考えたときの地域保健の得意・不得意分野について

＜得意分野＞

得意分野は，主に客観的，専門的評価である。

① 医師，専門機関との連携により，正確な発達状況を把握している。

② １から必要なフォローに関する注意点等を把握している。

③ 児の発達状況及び保護者の子育て状況を訪問によって把握することができる。

④ 家庭状況，地域状況等客観的な情報を把握し，評価している。

⑤ 医療機関や発達判定における専門機関と常に連携を取っており，必要な情報等を情報収集することができる。

＜不得意分野＞

不得意分野は，保護者・児との日常的な状況の継続的観察である。

① 日常の状況を常に把握していくことが困難である。

② ３歳児健診が，地域保健における乳幼児健診の最後の事業なので，フォローが十分にできないまま幼稚園等に就学してしまう。

③ 個別に保護者や児の状況把握や情報収集を行うためには，家庭訪問や電話訪問が考えられるが，理由がないと，連絡がとりにくく実施しにくい。

２．母子保健全体からみた，学校保健との関係における地域保健の求められる役割

(ア) 正確な発達判断と関係機関への情報提供

(イ) 乳幼児期の発達及び育児状況についての情報把握及び関係機関への情報提供

(ウ) 地域生活の状況についての情報把握及び関係機関への情報提供

(エ) フォローが必要な児に対する具体的支援及び対応についての情報把握及び関係機関への情報提供

(オ) フォローの必要な児の，地域でのフォロー状況の把握及び関係機関への情報提供

(カ) 医療等必要な関係機関との連絡調整

３．具体的な連携のあり方

① 観察及び支援が必要な児に関して，乳幼児期の発達状況等互いの情報を提供する。

② フォローが必要な児の支援方法の共有と協力体制をとる。

4．連携を困難にする問題点

地域保健で知り得た情報を，学校保健側へ情報提供されるということが，プライバシー侵害にあたらないかという点が，連携を考える上で大きな問題となる。

これの解決方法の実例として，地域保健から学校保健に個人情報を提供する際，公文書を作成し，地域保健側が保護者に対して公文書を見せながら，学校保健側に情報を提供する旨の説明する。その公文書は封をしないで保護者に手渡し，保護者から直接学校保健側に渡してもらうという形で，情報提供を行っている市町村の発表があった。

V．まとめ

地域保健と学校保健の連携が必要であるという認識は互いにあるものの，現場でどのようなことをしているのか，どのような連携を求めているのかなど，基本的な情報の共有がなされていなかった。今回研修を通じて，互いの職務内容を，互いの共通する3歳児の健診から，どのような連携が必要なのかが考察でき，連携への第1歩を踏み出した。これは，3歳というライフステージにおいても重要な時期のフォロー体制が整うという意味でも非常に重要であり，今後の母子保健充実を図る上でも必要不可欠であると考える。

今後，このような研修会を各地で実施し，連携へのきっかけを設定すると共に，連携できない問題点等を十分把握し解決策を考察する必要があると考える。

子育て支援意識と健康観についてのグループインタビュー（意見交換）を健康教室として開催した。参加者は7名であった。